

岡山のとしょかん

岡山県図書館協会報
第117号

金光図書館 創立70周年記念 図書館フェスティバル

金光図書館は平成25年9月8日、『創立70周年記念図書館フェスティバル』を開催しました。

金光図書館に縁のある様々な団体が参加してくださったことで、この行事は当初の予定を大きく上回り、図書館とその周辺にくりひろげられた大イベントとなりました。

音楽隊パレード

午前8時40分、「霊地少年少女会」の子どもたちによる音楽隊パレードにより、幕開けされました。図書館前までのパレードに沿道の人々は、拍手で歓迎してくれました。



〔としょかんフェスティバル開会宣言〕

開会セレモニー（1F ホール）

開会セレモニーでは、図書館の70年間の歩みや活動報告が披露され、祝辞や挨拶がなされました。圧巻は、金光学園幼稚園児の保護者のコーラスグループ「コールマミー」による、金光図書館の歌『盡（つ）くるなき』（昭和29年5月発表）の披露でした。金光図書館歌の復活をみた瞬間の感動で、大拍手がわきあがりました。



〔吉備舞 櫻井の駅〕

講演会（1F ホール）

鈴木靖民國學院大學名誉教授の「古事記、日本書紀の中の女性たち」と題した講演がなされました。この講演会には、さまざまなグループが前年から取り組んでくださいました。浅口市歴史民俗

資料館とタイアップした企画。さらに、図書館内にも、古事記コーナーを設けて、講演会をもちたててきました。ホールにいっぱいの来場者で、入りきれない人のために、会場外にテレビモニターを設置。多くの聴衆を魅了する講演でした。

佐方子供吉備神楽・吉備舞（1F ホール）

金光町佐方に伝わる伝統芸能・佐方子供吉備神楽は、古事記に題材をとった神楽です。



〔佐方子供吉備神楽〕

吉備舞は、吉備地方にうまれた舞で、ここでは歴史舞「櫻井の駅」が舞われました。どちらも金光に伝わる伝統芸能が、子どもに伝えられ続けているものが、図書館という発表の場で花開きました。

朗読会・暗唱大会・大型からくり紙芝居（4F）

朗読館 Momo による心にしみわたる朗読、練習を重ねた暗唱の発表、からくりが楽しい大型紙芝居の上演などに多くの人々が、集まり楽しみました。

その他、閲覧室では、読み聞かせ・工作・託児コーナー・県立図書館巡回展示コーナーなどが設けられ、それぞれにぎわいをみせました。

屋外に設けられた、古事記にちなんだゲームコーナー・自然農法による食べ物コーナー・震災支援コーナーなどは、図書館活動でつながった人々の応援の中で開催されたものでした。

70年前に創立された図書館が、創立記念日に感謝をこめて開催したフェスティバルは、創立者の精神「お役に立つ図書館」を改めてめざすことを確認したものとなりました。

（金光図書館 堀井雄輔）

岡山市立中央図書館開館 30 周年

岡山市立中央図書館は、昭和 58 年 4 月 27 日に開館し、昨年開館 30 周年を迎えました。開館当初約 14 万 5 千冊だった蔵書は、現在約 83 万冊。この間、3,400 万冊を超える貸出がありました。

これを機に図書館をより多くの方に利用していただくとう、「開館 30 周年」を冠してさまざまな行事を企画しました。ここではその一部をご紹介します。

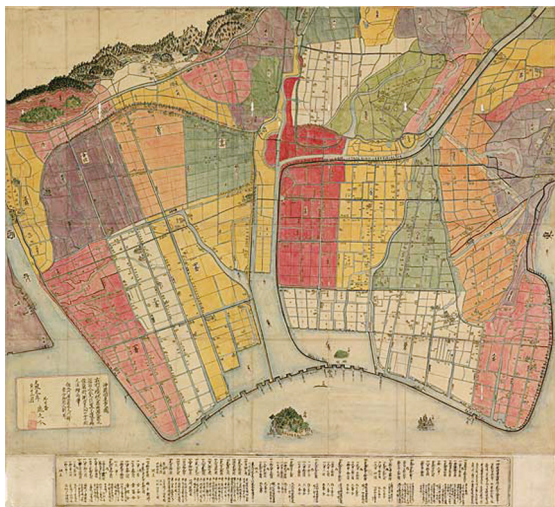
(1) 池田遙邨展 (平成 25 年 7 月)

岡山市生まれ (推定) の日本画家・池田遙邨氏ご本人から開館時に贈られた絵画「石垣」、「砂丘」、「稲かけ」を 7 年ぶりに展示しました。観覧された方の「淡い色彩が図書館の雰囲気ぴったり」とのコメントが新聞に掲載されました。

(2) 倉敷市立中央図書館との交換展示 (平成 25 年 8 月～9 月)

同じく開館 30 周年を迎えられた倉敷市立中央図書館と、互いの貴重な郷土資料を交換展示しました。当館では倉敷市出身の漢文学者・三島中洲ゆかりの品を、倉敷市立中央図書館では「高松城水攻築堤の図」などを展示しました。

(3) 特別展示「岡山市立図書館所蔵の古文書あれこれ」(平成 25 年 10 月～11 月)



〔岡山市指定重要文化財「沖新田東西之図」〕

「江戸時代の旅人の記録」、「安政南海地震・昭和南海地震の記録」、「岡山藩の地誌」の 3 つのテーマで、当館所蔵の古文書や絵図、旧町村の公文書等を展示しました。

また、これらの古文書と岡山の歴史に関する講演会には約 60 名の参加があり、盛会でした。

(4) 「—うたとえほんでつながる心—

絵本作家・野村たかあきがやってくる！」
(平成 25 年 12 月)

あたらしい童謡をつくる「とつくんこ」の会の主催により、絵本作家・野村たかあきさんをお招きしました。野村さん本人による絵本の読み聞かせや絵本についてのお話、参加者も加わっての手あそびうたや「やさい笛」の演奏がありました。大人も子どもも一緒になって歌と絵本で楽しい時間を過ごすことができました。

(5) 「岡山古文書を読む会」の活動成果展 (平成 25 年 12 月～平成 26 年 1 月)

昭和 47 年の発足以来、長年にわたって図書館の「古文書入門講座」の講師を務め、また図書館所蔵の古文書等を翻刻して図書館に献本するなどの活動を続けられている「岡山古文書を読む会」を紹介する展示を行いました。

また、「古文書のたのしみを語る～古文書の世界へのご招待～」と題した講座では、会員の方に古文書の楽しみ方や岡山ゆかりの古文書についてお話いただきました。

これらの行事はいずれもさまざまな方に支えられて開催することができました。今後も図書館を支えてくださる市民の方々、県内の図書館や関係機関の方々などとのつながりを大切にしていきたいと考えています。

岡山市立図書館は平成 28 年には創立 100 周年を迎えます。次はこの節目に向けて、「地域に密着し、一人ひとりの暮らしとまちづくりに役立つ図書館」としてサービスを発展させていきたいと思ひます。

(岡山市立中央図書館 杉野 築)

里庄町立図書館と町内の小学校との連携

里庄町立図書館では、平成 15 年頃から本格的に町内の小・中学校の授業で使用する本を提供してきました。町内には小学校二つ、中学校が一つあります。学校司書は一人だけで、小学校は週 1 日、中学校は週 2 日の勤務です。4 月当初に、学校側から 1 年を通して必要な本を月ごとに一覧表にして提出してもらっています。購入時期を必要な季節に合わせたり、必要な資料を配分したりできましたが、やはり 1 年前ではニーズがつかみにくいので、平成 24 年度から学期ごとに一覧表を出す形式に変更しました。7 年ほど前から 4 月当初に図書担当の教諭との面談を始めました。図書館側がお願いしたいことや、学校側からの要望を聞く場となっています。

図書館の資料を使つての調べ学習と展示

里庄西小学校は、平成 24 年度に読書活動推進実践校として、文部科学大臣賞を受賞しました。様々な読書推進の取組が評価されましたが、その中の一つ里庄町立図書館と連携した取組について述べます。

① 「外国のお話を読んでブックフェアを開こう」
単元「三年とうげ／本は友だち」(光村図書 3 年)

- ・ 展示期間・・・平成 22 年 7 月 20 日～8 月 29 日
- ・ 展示数・・・58 点

図書館 1 階玄関ロビーに、作成した「紹介したい世界の民話の帯」を展示しました。

② 「伝記を読んでリーフレットを作り『おすすめ人物ブックフェア』をしよう」

単元「百年後のふるさとを守る」(光村図書 6 年)

- ・ 展示期間・・・平成 24 年 1 月 4 日～1 月 16 日
- ・ 展示数・・・65 点

展示の机の真ん中部分にブックスタンドを使って伝記の本を 10 冊ほど並べました。

利用者カード作成と学校での貸出

I 第一段階・・・利用者カードの登録を学校を通して行います。小学生の利用者カードの登録率が少なかったため、学校にお願いしました。登録率が

向上し、児童の読書欲も高まりました。

II 第二段階・・・できあがった利用者カードを図書館見学时に児童に手渡し、利用案内をします。その後、利用者カードを使って本を借ります。

III 第三段階・・・学校図書館で夏休み用図書を携帯用端末 P O T を使用して、個人カードで貸し出します。

- ・ 1 年目 平成 23 年 7 月 18 日 (西小) 145 冊貸出
 - ・ 2 年目 平成 24 年 7 月 12 日 (西小) 64 冊貸出
平成 24 年 7 月 18 日 (東小) 140 冊貸出
 - ・ 3 年目 平成 25 年 7 月 17 日 (東小) 160 冊貸出
- ### 小学校との連携を通して見えてきたもの

利用者カードを使つての貸出は 3 年目を迎えました。少しずつ問題が見えてきました。利用者カードを貸出日当日小学校に持参して貸出をするということが、案外難しいです。保管の問題もあります。

しかし、反面学校で使用するということで、保護者が利用者カードの存在を意識したり、再発行を希望したりと保護者の意識づけに効果があるようです。そして何より自分の利用者カードを作ると児童の貸出意欲が大いに向上します。児童が、利用者カードを握つて何を借りようかと目をキラキラさせながら、



〔小学校での貸出の様子〕

学校図書館に押し寄せる様は見えてうれしいです。

「公共図書館の蔵書を小学校に貸し出してそれで事足りたと思って良いのか、それ以前に学校図書館の蔵書の充実を図るべきなのでは」と悩みましたが (今後も学校図書館の予算確保と司書の全校配置は、主張し続けます) 今はとりあえず本のたくさんある所から少ない所に持って行って利用者のニーズに応えるという仕事を愚直に続けたいと思います。

(里庄町立図書館 小野礼子)

平成 25 年度岡山県図書館協会 研修参加助成事業報告 (1)

研修名：第 99 回全国図書館大会福岡大会
期 日：11 月 21 日 (木) ~ 22 日 (金)
会 場：アクロス福岡 (福岡県福岡市)
テ ー マ：第 7 分科会 図書館の自由
みんなでつくるネットワーク時代の
図書館の自由

■概要

〈第 1 日目〉

記念講演：「過去と未来の自分に出会えるかもしれない、究極の図書館」講師 ロバート・キャンベル氏 (東京大学大学院総合文化研究科教授)

出身はニューヨーク市ブロンズ地区。祖父の時代にアイルランドから移り住んだが、治安が悪く低所得者が多い地区で、棲み分けをしながら暮らした。各地の図書館の郷土資料で得たヒントで仕事が成り立っている。現在はジャズストリートが名物の杉並区阿佐ヶ谷に住んでいる。あらゆるところでミニコンサートをしているが、本でも同じことができるのではと考えている。技を持っている人と図書館を結びつけて働いてもらうことなどだ。

東日本大震災の後、図書館が音頭をとって、本を紹介するだけでなく継続的に人々をケアすることをしては？職員だけでは大変なので、多くの人を巻き込みコラボして様々なことをする。ライフラインが定まった後は、心の癒やしが必要ではないだろうか。

〈第 2 日目〉

①基調報告「図書館の自由・この 1 年」

西河内靖泰氏 (日本図書館協会)

「自由宣言」のポスターを貼る図書館が減ってきています。天皇が見学に来られたのでポスターを剥がしたというところさえありました。「週刊朝日」橋下市長問題は、個人を差別する目的で書かれていることが問題です。図書館で見せないというのは、差別を覆い隠すことになり、後での検証を難しくします。見せないことがどんな意味を持つのかを考えて

ください。『はだしのゲン』騒動は、マスコミを含めてそれぞれの立場から議論しています。本を評価するのは図書館とは関係ありません。出版された頃の議論のいきさつを知れば判断できたはずですが。武雄市立図書館は、運営の仕方ではなく、T ポイントカードの利用の仕方に問題があります。パーソナルデータが参加企業に提供されることが問題なのです。

②特別報告「学校図書館における貸出履歴の取り扱いをめぐる論点」山口真也氏 (沖繩国際大学)

学校図書館において貸出履歴を残してパソコン上でレコメンドすることに関して、機械と人間では違います。読んだ本、借りたけれど読んでいない本、面白くなかった本等実態が様々なので、アマゾンのようにレコメンドされるかどうか選べるソフトでなければなりません。図書館がデータを持ってレコメンドするという議論からは抜け出すべきです。図書館を活用した読書指導という観点が必要になります。教師が行う以上、方向性があるはずなので、これまで学校図書館が当たり前のように行ってきたことで十分なのではないでしょうか。

③基調講演「図書館の自由」の憲法論的考察 岡村久道氏 (弁護士)

自由宣言が、拘束力のない単なる自主綱領と言われていることがありますが、丁寧に読み込むと、その大部分は憲法的な価値を具現化したものと理解されます。→1979 年の改訂時作業した一人である塩見昇氏の発言…社会の中での位置づけや規範性の参考になるものなので、憲法を取り込んだものを、というのは意識して作業を行いました。

■研修成果

毎年自腹で大会に行き「図書館の自由」分科会に参加しているため、今回の参加助成は本当にありがたかったです。全体会と分科会の基調報告でその年の問題点が確認でき、今後アンテナが張れるので助かっています。今回、学校図書館の特別報告で、限られた蔵書からのレコメンドは資料収集・提供の自由に抵触しないかという提案がありました。思いもしなかった視点なので、新鮮に受けとめるとともに、未だにその是非を考えています。

(岡山市立芳泉中学校 池田桂子)

平成 25 年度岡山県図書館協会 研修参加助成事業報告 (2)

研修名：平成 25 年度

中国四国地区図書館地区別研修

期日・会場：12月10日(火)～13日(金)

広島県情報プラザ(広島県広島市)

■概要

講義・演習「広報戦略」

田中 均氏(昭和女子大学)

主に web による広報戦略について学びました。現在、利用者が図書館に何を希望しているかが分かりづらくなっているため、図書館側から展望を明確に打ち出し、図書館に建設的な意見を出してくれるハブユーザー(SNSなど、コミュニティのハブとなる人物)との良い関係をつくることが重要となります。また、web ユニバーサルデザインでは、従来のようにアクセシビリティとユーザビリティのどちらかに偏るのではなく、両立させることが可能になってきたとのことでした。



[広報戦略 田中 均氏]

講義・演習「調べる力」

関沢英彦氏(東京経済大学)

「他人があつめたもの」という2次情報、「自分があつめたもの」という1次情報、「内面から集めたもの」という0次情報という3タイプに情報を分類し、演習によって情報の集め方を学びました。2次情報

は調査結果からの推察、1次情報は実際のインタビュー、0次情報は紙に書かれた言葉からの連想をいう方法で情報を集める演習を行いました。

講演「今、子どもたちに求められているもの」

堀川照代氏(青山学院女子短期大学)

学習指導要領改訂の背景から、子どもたちに図書館ができる支援について学びました。まず、背景として読書離れとOECDが行ったPISAの結果があげられました。PISAの結果によると、日本の生徒は自分の知識からの類推や知識を応用すること、問題を特定し組み立てることが不得手です。そのため、情報リテラシーの育成や習得型・探求型の学習の支援を図書館ができるのではないかとのことでした。また、各図書館で行っている児童サービスの取り組み発表を行いました。

講義「国立国会図書館における電子図書館サービスと電子書籍の収集について」

藤原 誠氏(国立国会図書館関西館)

国立国会図書館のデジタル化資料の紹介と平成25年1月に新設、施行される著作権法第31条第3項についての説明がありました。第31条第3項の閲覧利用は送信先機関の「登録利用者」のみ、閲覧用端末は職員の目の届く場所に設置、複写も職員がプリントアウトするなど、利用条件が細かく設定されていました。また、プリントアウトの際は画像の調整機能を使わないときれいに印刷されないとのことでした。

■研修成果

今回の研修では、改めて図書館の基本理念や役割を学ぶことができました。日々の仕事で忘れがちな部分ですが、自分が何を目標として図書館の仕事をしているのかを考える良いきっかけとなりました。

また、各図書館で実践しているサービスや活動の話をお聞きすることができたのも良かったです。どの図書館も大小さまざまな問題を抱え、その問題を改善するため努力していることを実感しました。今回の研修の成果を、今後の仕事に生かしていきたいと思えます。

(笠岡市立図書館 原田恭江)

活動紹介『博物館と図書館』

平成17年4月に、岡山県立図書館に異動して以来、日々の生活の中で図書館を活用するようになりました。それまでは、自分が使う図書資料は、極力購入していたので、図書館を利用することがあまりなかったのです。

その後、平成25年4月から岡山県立博物館学芸課で働くようになり、博物館での展示や調査等の業務のために、これまで以上に図書館を利用するようになりました。

私を含めて、岡山県立博物館学芸課の職員は、図書館をよく利用しています。図書資料をもとにした調査研究はもちろんのこと、図書館へのレファレンスによって、こちらが知らなかった事実を知ることができます。このような図書館の利用によって、私たちが博物館で発信する情報がさらに広く、深まっていきます。よりよい博物館での展示を目指して、今後も、積極的に図書館を利用していきたいと思っています。



【県立図書館での関連展示】

個人的な利用とは別に、博物館と図書館との連携も行われています。

岡山県立博物館では、県民へのサービスの充実という観点から、今年度より試行的に平成26年1月1日～3日を臨時開館しました。元日は後楽園が無料で開園しているので、後楽園と同じく無料で入館できるようにした結果、3,119人が来館さ

れました（昨年度一年間入館者数：48,584人）。

あわせて、平成24年度から行っている岡山・高知交流文化事業・交流展「土佐の水と暮らし」（平成26年1月1日～2月16日）も、元日から開幕しました。

高知県立歴史民俗資料館・いの町紙の博物館等からお借りした文化財を展示室に並べて、見ていただきました。岡山県の民俗とは異なる、高知県の水を中心とした人々の暮らしを楽しんでいただくことができたとと思います。

その際、岡山県立図書館社会科学班の協力により、図書館エントランスに関連する図書を特別に展示していただきました。また、同班が作成した四万十川や高知県の民俗・風土に関するブックリストを博物館の展示室内に置く取り組みも行いました。博物館へ来館された方の多くが、ブックリストを持って帰られたようであり、博物館のアンケートにも図書館とのコラボレートについて評価するコメントも見られました。



【県立博物館でのブックリストの設置】

「実物資料」は博物館で、「図書資料」は図書館で。このように互いの強みを連携することができていけば、それぞれの利用者にとっても有益な「学び」の場になるのではないかと考えています。

これからも、博物館と図書館で、しっかりと学びながら、自分自身も成長していきたいと思っています。

（岡山県立博物館 内池英樹）

県図協セミナー（第2回）報告

「プロから学ぶ図書館のための

デザインカアアップセミナー」

講師：株式会社ビザビコミュニケーションズ

松尾浩司氏、河内 猛氏

期 日：平成 25 年 8 月 29 日（木）

「利用者へアピールするポスターを作成したい！」
「チラシをより効果的なデザインに仕上げたい！」
会員からそのような声が届き、この度プロである
ビザビコミュニケーションズの方からデザインカ
アのアップを目的とした研修を開催しました。

昨年度は、代官山蔦屋書店の間室氏から「P O
Pの書き方」を学びましたが、今回も日常業務に
直結する内容で、52名にご参加いただきました。
講座の柱は、伝える技術基礎知識の「コピー編」
と「デザイン編」の2つ。

まず、コピー編
では、キャッチコ
ピーの作り方を、
「何故」「何を」
「どう」伝えるか
の順に、具体例
を交えて学びま
した。また、SW



〔研修の様子、コピー編〕

OT分析による「プラス面」「マイナス面」を捉え
る方法も付け加えられました。

もう一つのデザイン編では、伝えたい内容によ
って変わる「様式を決定づける8つの要素」と「色
の基本」（色相、彩度）を中心とした内容でした。
研修後の参加者の感想には、「図書館でつくるの
は簡素なものが多いのだが、キャッチコピーなど
まだ工夫できると感じた。」「コピーもデザインも
伝えたい内容によって様々な効果を使い分ける
ことが大事だと、とても勉強になった。」と、ご
好評いただけた研修となりました。

（事務局）

第 88 回教養講座報告

連続講座「岡山を知る」

期 日：平成 25 年 12 月 4 日～6 日

■テーマ：「岡山の古文献」（12月4日）

講 師：別府信吾氏（岡山地方史研究会会員）



知識探索サイト・ジャ
パンナレッジの活用方法
など、郷土資料のレファ
レンスについて学びまし
た。参加者からは、別府
氏のお話より「資料の価値は、時を経なければわ
からないということ。」が印象に残ったと感想を
いただきました。

■テーマ：「郷土研究の楽しみ」（12月5日）

講 師：赤井克己氏（郷土史研究家）



「岡山藩初代藩主は池田
光政ではない。」「後樂園
入り口の竹下夢二『宵待
ち草』詩碑の間違い。」な
ど、岡山の代表観光施設
のいい加減さについて解説する赤井氏。事実をそ
のまま鵜呑みするのではなく、本当に真実なのか
と疑問を持つことの大切さ、面白さを教えていた
だきました。

■テーマ：「岡山の経済と文化」（12月6日）

講 師：在間宣久氏

（前岡山県立記録資料館長）



「大正10年頃、吉井川を
行き来した高瀬舟の秘密。」
「同じく大正時代、牛窓町
における材木移出入の秘
密。」など、自作のマップ
をもとに、人とももの交流について語る在間氏。
その交流が、経済の需要と供給へ、さらには文化
へとどんどんつながりを持って広がっていること
を学びました。

（事務局）

個人会員紹介☆黒瀬 知子さん 『くろせ文庫準備中』

図書館から他の部署へ異動になって、今年で丸十年が経ちました。その間にあった出来事の中で最も図書館らしいことは、自宅に文庫を作ったことでしょうか。まだまだ、公開には至らない文庫の開設途上をお知らせします。

なぜ、文庫を作ろうかと思いついたのか。

それは、やっぱり図書館が好きだからです。様々な挫折や困難な出来事に対して、いつも助けてくれたのが、本であり、図書室や図書館であり、そこに働く人々であったから、今は図書館の職を離れていますが、やはり、本を介して、何か役に立ちたい、そんな思いがありました。

文庫の大きさは、蔵の1階を改修したので、約8坪、収容冊数は約2,000冊ほどの小さなものですが、展示架を付け、大きな四角い閲覧机と、小さな丸い座卓を置くと、形だけは小さな図書室のようになりました。さて、いざ所蔵する本を並べてみると、なんと偏った収書の様相を呈していました。おやおや、これではとても文庫活動をすることはできない、もっと勉強して、収書もやり直さなくては、と反省しきりです。とはいえ、せっかく作ったので、小さな図書室として、季節ごとにテーマを決めて、展示架の様様替えや、蔵書に入れ替えを行っています。また、時には「勝手に貸本屋」と称して、友人や同僚に、面白い本がありますが読んでみませんか、と勝手に本を運んでいます。返却される時に聞く感想や、本を手渡した時の笑顔が何よりも楽しみなので、しばらくは「勝手に貸本屋」の活動を続けながら、少しずつ

つ整え成長させていきたいと思います。



〔壁面の展示架〕

事務局からのお知らせ

■企画委員会



2月19日(水)に第2回企画委員会を開催しました。主に来年度の研修企画や会報内容について相談しました。今回をもちまして、委員の皆様は2年の任期が終了となります。9名の皆様大変お世話になりました。

9名の皆様大変お世話になりました。

一 関委員長からひとこと

2年間の大役を終えることができほっとしました。館種を超えて、いろいろな情報交換や企画を立てることができて、本当に良かったです。大変お世話になりました。

■異動調査

本年度も例年通り異動調査を行います。所属・住所等の異動があった方は事務局までご連絡ください。また、入会・退会をご希望の方も併せてお知らせください。

■本年度の研修

県図協セミナー(特別編)・会員交流会

テーマ:「日本の図書館 現状とこれから」

日時:平成26年3月17日(月)14時~

講師:塩見 昇氏(大阪教育大学名誉教授・前日本図書館協会理事長)

今年度最後の研修となります。ぜひ、ご参加ください。詳しくは、HPをご参照ください。

平成26年3月1日発行

〒700-0823

岡山市北区丸の内2-6-30

岡山県立図書館 図書館振興課内

岡山県図書館協会 会長 三村 修

TEL:086-224-1286